

★ジャンルを超えた活躍の可能性を感じる注目の女性サックス奏者★ 五十嵐祥子【Shoko Igarashi】



2012年に渡米し、パークリー音楽大学に進学。同校卒業後2015年春に拠点をNYに移し、翌2016年1月にShoko Igarashi Organ Trioで1stアルバム『Alarm Call』をリリースした五十嵐祥子。

サックスに込めた音楽に対する真摯な態度、オルガントリオを率いるそのセンスにも感銘を受けた。本誌Vol.55の巻頭特集「現代版『ジャズ・ミュージシャン3つの願い【Part-4】」で3つの願いを寄せてくれたが、今後はジャンルを超えて活躍する予感も感じる注目の女性サックス奏者だ。

2018年秋頃からベルギーに滞在中で、今後の新たな展開が楽しみな五十嵐祥子に話を聞いた。

【2019年2月取材・文：加瀬正之】

●2016年にリリースされた1stアルバム『Alarm Call』はオルガンとドラムのトリオによる素晴らしい作品でしたが、今振り返ってどんな気持ちですか？

アルバム作成時の前後は本当に良い意味でも悪い意味でも大変な時で、学生が終わり、ニューヨークに引っ越し、右も左も分からないまま色々な人たちに会い、手を差し伸べてもらいました。プライベートでも今まで当たり前だと思っていた常識的なものが粉々に砕けてゆくような心境でした。アメリカでアーティストビザと呼ばれるO-1bビザを申請することになり、ビザの字もわからないような状況で、本当に友人、先輩方に救われました。アルバムはビザ申請と並行して行われたので精神的に十分でない中、作曲、自分の好きな曲、アーティストを通り見つめ直して、アイデアにしてみました。自分がリーダーとなって進んで行くプロジェクトが『Alarm Call』がはじめてだったので、制作中は少し戸惑いながらも終わった後、全ての過程がとても勉強になり、自分をミュージシャンとして一歩先へと導いてくれていくことができました。

●『Alarm Call』のコンセプトとメンバーについて聞かせて下さい。コンセプトはアルバム制作時の“頭の中をぎゅっと絞って出した”ですね。オリジナルの一曲、“PONS”はもともとコードレストリオで演奏していた曲、残りの2曲はその当時思っていた感情をそのまま書き下ろしました。メンバーの2人はもともとパークリーからの仲で、最も私が音楽的に信頼、尊敬できる人たちでもありました。このアルバム制作時スタジオのオーナーはオルガンの末永さんの紹介でしたし、早朝からの録音、どのテイクをとるか、ミックスの話まで全部に付き合ってもらい、3人で作り上げたと言えます。

●路上ライブで演奏していたというマイケル・ジャクソンのナンバー「I can't help it」も収録されていますが、五十嵐さんにとって特別な曲だったのでしょうか？

バスキング（路上演奏）はニューヨークに引っ越して来て最初にしたことでした。はつきり言ってバスキングはすごく苦手でした。殺伐とした雰囲気と、立ち止まって聞いてくれる人、聞いてくれない人、私たちが演奏していることさえ気づいてない人、怒る人、褒める人、全ての人たちが目の前にフィルター無しで現れてくる状況で演奏するのは、慣れることのない無限に続く修行のような感覚でした。そんな中マイケルの「I can't help it」はほぼ毎回演奏していました。バスキングでは色々なジャンルの曲を演奏し

ていたのですが、この曲は個人的に気に入っていて、楽しめる曲でした。そうすると聴いている人たちにも好きな気持ちが伝わっているようで、自然に足を止めて聴いてくれる人が増えていました。演奏する私自身が楽しんでいるとそれがダイレクトに伝わるのだなど身を以て学びました。

●ジャケットもとても印象的ですが、どのようなイメージでデザインされたのですか？

ジャケットは実は私の手書きで、特に決まったイメージは持たず、どれだけバランスよくうねうねの円を書けるか！という気持ちで書いたのを覚えています。絵は2014年頃からメディテーションのような感覚で書き始めて、ジャケットで使ったモチーフは、絵を書き始めた頃からずっと使っている線を組み合わせただけです。最初はフロントジャケットも裏側も、私の写真にしようと思っていたのですが、せっかくだからアルバムを作るのだし、好きなこと、とことんやろう！ということで、このジャケットを書きました。

●サックスを始めたきっかけについて聞かせて下さい。

サックスは小学校のブラスバンド部に見学に行ったときに、一目惚れしました。

●サックスを始めた頃に憧れたアーティスト、その後、影響を受けたアーティストは誰ですか？

サックスを始めた頃の目標はルパン三世のテーマを吹く！です。ルパンをクリアした後はCD屋さんでくじ引きのように選んだコルトレーンのアルバムが今でも私に影響を与え続けています。音楽的な影響はJoe Henderson、John Coltrane、技術的にはJerry Bergonziに長年影響を受けています。つい最近衝撃的な出会いをしたのがChris Speed。彼のコードレストリオに恋に落ちました。Steve Grossmanの一作目『Some shapes to come』やStone Allianceのアルバムなどでのソロなども最近のお気に入りです。

●2012年に渡米されましたが、どのような経緯や決断があったのですか？

渡米した主な理由はパークリー音楽大学進学のためです。私がサックスを始めたばかりの頃からの将来の夢が、パークリー進学でした。実際に入学するときはワクワクとドキドキで一切不安はなかったです。



●ニューヨークの生活で印象に残ったことは何ですか？

ニューヨークで印象に残ったことは、街全体がすごく不思議な雰囲気包まれていることです。電車や町並み、古いままのものや、新しくまだ見たことがないもの、様々な人種、様々な状況、なんでも見せてくれます。見たくないときも見せてくれます。数ブロック歩けばガラッと変わる街をよく歩きました。嫌なこともたくさんありました。それと同じくらい、楽しいこともたくさん経験しました。

●ベルギーの音楽シーンはいかがですか？

ベルギーの音楽シーンはとてもユニークです。ミュージシャンもヨーロッパ内の様々な場所から集まっています。私がよく聞きに行くのはエクスペリメンタル系のコンサートで、フリージャズというよりはもっと実験的な音楽。手作りの楽器（機械？）などでノイズのようなのを永遠と演奏している人もいました。ニューヨークではあまり聴きに行かなかった音楽を聴きに行く機会が増えています。

●将来活動の拠点にしてみたい国、演奏してみたい場所などありますか？

世界中が活動拠点になったら素敵だなと思います。その中でも日本はとても魅力的です。

●ジャンルに関わらず、影響を受けて愛聴して来たアルバムを3枚挙げて下さい。

Earth, Wind & Fire 『Live at Velfarre』
Lester Young 『The Lester Young Trio』
Joe Henderson 『Inner Urge』

●ジャンルに関わらず共演してみたいアーティストは誰ですか？

ニューヨークの Smalls で Gregory Hutchinson のライブを見たとき、スネアの音で全身を真二つに切られました。それくらいタイトで、素晴らしい演奏でした。その時に将来絶対に自分のアルバムで叩いてもらえるように精進しようと思えました。

●作曲はどのようにしているのですか？

作曲はまず作りたい曲のイメージを固めてからコードから作ります。メロディーを決めた後に徐々にアレンジを固めて行きます。最初からぼん！っと100%完成するわけではないので、ライブでの経験から修正を繰り返すことはよくあります。

●新作のリリース予定はありますか？ また、次作の構想などあれば聞かせて下さい。

今年から来年にかけて全曲オリジナルのアルバムを制作する予定です。詳細はまだ未定ですが、少しずつ時間をかけて丁寧に作っていかれたらと思っています。

●2019年はどうなな年にしたいですか？

現在ベルギーに滞在していて、新しい生活に少しずつ慣れてきています。前年は引越して新しく訪れた環境に困惑しながらバタバタした生活を送っていましたが、今年は色々なことにアクティブに挑戦していける年にできたらいいなと思っています。ヨーロッパでの演奏活動をもっと増やして様々な場所で演奏したいです。

●音楽以外の趣味は何ですか？

集中力を高めるための練習として絵を書いています。手帳に落書きする形から始めて、最近では60cm x 40cmくらいの大きな紙に書くようになりました。絵専用のインスタグラムがありますので、少し覗いてみてください。@shokoigarashiart

●本誌 Vol.55 の巻頭特集「現代版“ジャズ・ミュージシャン 3つの願い【Part-4】」で、願いの1つに「Moogのサウンドモジュール (mother 32) が欲しい。」と挙げてくれましたが、これが手にいたらどんなことをしてみたいですか？

Mother32とウインドシンセを繋げて色々な音を作って演奏してみたいです。1月にBrusselsにあるKanal Centre Pompidouという、元々はCitroënの自動車工場だった場所をアートエキシビジョンとして再利用している場所で、インド古典音楽のラーガからアイデアを取り、そのラーガをもとに即興演奏するというパフォーマンスをしました。その時にたくさんのエフェクトペダルと、マイク、シンセサイザーを楽器につなげ、色々な音を作りながら演奏しました。その時初めてモジュラーシンセサイザー奏者の方と演奏をして、すごく新鮮というか斬新！と感じて、あたらしく作ってみたいアイデアがどんどん生まれてきました。

●五十嵐さんにとって“サククス”とは？

サククスは自分の第二の体というか、そこから音を出すことによって、感情をだれかに伝えられる手段のようなものだと思います。

●夢や目標は何ですか？

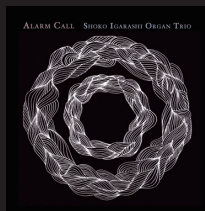
夢は世界中の様々な場所をこの目でみてみたいです。目標は自分が自分のファンになること。

●The Walker's 読者とファンにメッセージをお願いします。

いつもThe Walker'sをご愛読ありがとうございます。楽器を演奏していても、してなくても、ジャズを好きということがまるで共通の言語のように、世界中にいる人々を繋げる役割になってくれると思っています。これからもThe Walker'sを通してミュージシャンが何を思っているのか、ニューヨークや様々な場所の雰囲気や香りなどを感じてください！

Shoko Igarashi HP ⇒ <http://shokoigarashi.com>

五十嵐祥子のオルガントリオによる 1st アルバム



Alarm Call
Shoko Igarashi
Organ Trio

© Shoko Igarashi Organ Trio
(Import CD)

2016年1月発売